

令和2年度 徳島市国府中学校 総括評価表

自己評価			学校関係者評価		次年度への課題と今後の改善策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	
学力向上のための授業力向上に努める。	基礎基本となる学力の定着と「対話」力の育成	評価指標 ○ 授業の「めあて」を明示・確認し「ノート」のチェックを行っている。 ○ 授業の終わりに本時の振り返りの時間をとっている。 ○ 一人ひとりに応じた家庭学習の方法を指導している。	評価指標の達成度 A 30% B 67% C 3%	総合評価 B (所見) 授業規律の確保を図り、落ち着いた雰囲気の中で授業を行うことができた。 また、毎時間、めあての提示や板書の工夫とともに、主体的・対話的で深い学びに向けての発問の工夫等行えた。	(自己評価結果について) 教職員の自己評価については全体的に指導の努力がうかがえる。しかし教材研究や授業研究の充実の項目は、昨年度より低下している。今年度は新型コロナ感染予防対策等を余儀なくされたため、どこまで授業が徹底できたのか気になる。生徒・保護者とも学年が上がるにつれてよくなっていることは、目標達成に向け、生徒の自覚や教職員の指導の成果だと評価できる。 (今後の改善策について) 一人一台タブレット配置に伴い、教職員の資質レベルの向上が必要となる。ICTを活用した授業の推進をお願いしたい。
		○ ホワイトボードミーティングを取り入れるなど、アクティブ・ラーニングを意識した授業を行っている。 ○ 定期テストなどで、記述式の設定を多く取り入れている。 ○ 「総合的な学習の時間」の学習発表会や人権意見発表会など、発表の場を設けている。	A 19% B 74% C 7%		
		○ 校内研修が計画的に実施され、教職員が積極的に参加している。 ○ 教職員が相互授業参観や情報交換を通して互いに研鑽し合っている。 ○ 板書やノート指導、発問の仕方等に工夫と改善を加えている。	A 23% B 74% C 3%		
		活動計画 ① どの生徒にも授業の流れがわかりやすく振り返りがしやすい授業を実践し、家庭学習の習慣の確立を図る。 ② 多様な遺賢や考えが生まれるような課題を与え、自分や他者の思いや考えを、書いたり、表現したりする場を設ける。 ③ 教職員の意識改革と授業力向上のための校内研修に取り組む。	活動計画の実施状況 全教職員共通理解の元実践できた。 全教職員共通理解の元実践できた。 相互参観ウィークを活用し教師間で意見交換できた。		●教材・教具等を効果的に活用しわかりやすい指導の工夫をする。(ICT活用) ●基礎学力の更なる定着を図ることと思考力・判断力表現力の育成をバランス良く行う必要がある。 ●一人一人に応じた家庭学習方法を指導する。 ◇読書活動の習慣化をさらに推進し、読解力や語彙力の向上に努めるとともに、各種行事や短学活を活用し表現の場を充実させ、表現力の育成を図る。 ◇基礎学力定着のためT Tを増やしたり、居残り学習を実施したりするなどして個に応じた学習指導ができるシステムを構築する。 ◇一人一台タブレット配置に伴いICTを活用した効果的な授業実践を推進する。 ◇今年度に引き続き、効果的な校内研修を計画的に実施する。
教職員自らの人権意識の向上を図るとともに生徒の実態に即した指導の充実を努める。	一人ひとりの生徒理解と個々のニーズに即した、きめ細やかな指導の実践	評価指標 ○ 日本の人権獲得の歴史や、個人人権課題について正しく理解できるように指導している。 ○ 日常の学校生活で、人権を尊重する態度を身につけさせている。 ○ コミュニケーション能力や、表現力の育成に取り組んでいる。	評価指標の達成度 A 27% B 73% C 0%	総合評価 B (所見) 積極的な声かけや観察を通し、生徒のニーズを把握し生徒理解に努めるよう努力した。 また、教職員が相互に協働し組織的に報告・連絡・相談を重視した対応ができた。	(自己評価結果について) 生徒の自己評価について「道徳や授業の中で自分の思いや意見をいうよう心がけている」の項目が向上してよい結果となっている。今まさに道徳教育の推進が評価に現れ、時代に対応しているといえる。 (今後の改善策について) 社会環境の急変により、学校・家庭・地域・各種関係機関との連携を工夫しながら、道徳教育・人権教育・個に応じた指導等を進めてほしい。今後ともいじめや暴力のない学校運営を行ってほしい。
		○ 家庭訪問・個人面談等を利用し、個々のニーズの把握に努めている。 ○ 個別支援、個の困難さに応じた指導を行っている。 ○ 定期的にアンケート調査を行いいじめの早期発見に取り組んでいる。 ○ 相談体制を確立し、生徒の不安や悩みを丁寧に聞いている。	A 30% B 70% C 0%		
		○ 互いの違いを認め合い尊重し合える集団作りを行っている。 ○ 共に助け合える仲間作りを行っている。 ○ 悪口や陰口などへの指導を適切に行っている。	A 33% B 67% C 0%		
		活動計画 ① 人権尊重の精神を養い、知識・技能・態度を身につけさせ、社会に出てからも差別を解消する実践力を持った生徒の育成に取り組む。 ② 一人ひとりの生徒理解に努め、個々のニーズに配慮した支援と、いじめの根絶に向け、早期発見に努めるとともに組織で適切な対応を行う。 ③ 互いに認め合い、支え合う温かい人間関係の構築をめざした人権教育を推進する。	活動計画の実施状況 全教職員共通理解の元推進できた。 できる限りの努力は行った。 道徳の時間を中心にあらゆる教育活動で推進できた。		●複雑化・多様化するニーズにどのように対応していくかが課題である。 ●日常の中で「心ない言葉」を発する生徒を見逃さず指導を徹底し継続的な関わりをする必要がある。 ◇日々の観察や家庭訪問・三者面談等を通して、個々の教育的ニーズの把握に努めるとともに、必要な情報を校内で共有し、活用できるシステム作りに努める。 ◇生徒指導上のそれぞれの役割を明確にし、確実にその役割を果たす。 ◇スクールカウンセラーや各種関係機関と連携しながら、多面的に生徒理解に努める。
家庭・地域との連携強化に努める。	家庭・地域・関係機関と連携を強化し、情報の共有化及び学校教育に対する理解や支援の充実を図る。	評価指標 ○ 学年・学級通信等の各種通信を積極的に活用し情報発信を行っている。 ○ 家庭訪問や電話連絡をこまめに行い、保護者との連携を深めている。	評価指標の達成度 A 30% B 70% C 0%	総合評価 B (所見) 積極的に情報発信を行い家庭・地域との連携に努めた。 また、多くの行事が中止となる中、各種説明会に、多くの保護者の参加協力を得られた。	(自己評価結果について) コロナ禍にあって、学校生活も非日常の中、十分な活動ができず学校運営にご苦労されたと思う。そのような中ではあるが、地域との連携を図る意欲がうかがえる。 (今後の改善策について) 次年度もこれまでに引き続き情報を保護者・地域に発信し連携に取り組んでほしい。 新しい生活様式を考慮し、新しい問題点で、家庭・地域との連携強化のための目標を設定してほしい。
		○ 保護者や地域の方が参加しやすいような日程で行事を計画している。 ○ 学校行事の時には、保護者や地域の方と積極的に情報交換を行っている。	A 12% B 77% C 11%		
		○ 地域行事の広報啓発に努めている。 ○ 地域行事における学校の役割を認識し、積極的に参加している。	A 4% B 63% C 33%		
		活動計画 ① 学校の情報を積極的に発信し、開かれた学校づくりを行う。 ② 各種学校行事において保護者や地域の方々との協働体制を築くよう努める。 ③ 地域行事に積極的に参画し、その振興と発展に寄与する。	活動計画の実施状況 危機対応等、情報発信に努めた。 各種行事の中止・延期の説明をする中、保護者の理解協力が得られた。 地域行事等参画できなかった。		●学校から配布した文書が保護者に渡されていない場合がある。 ●学校の教育活動について保護者に十分に理解されていない場合がある。 ◇新しい生活様式を考慮した上で、安心・安全を基盤とし、今後も地域行事に計画的に参画することにより地域とのさらなる連携協働体制の構築をめざす。 ◇学校からの保護者宛文書を実際に保護者に渡すように生徒への指導を徹底するとともに保護者に対しても保護者宛文書を必ず確認するように協力依頼をする。 ◇全教職員が学校運営に参画している意識をもち、家庭・地域との連携に携わる。

総合評価の基準 **A** 十分達成できた。 **B** 概ね達成できた。 **C** 達成できなかった。